

熊本県立河浦高等学校 平成27年度学校評価表

| 1 学校教育目標 | | | | | | |
|--|------------------|--|--|--|---|--|
| 「地域や保護者に信頼され、生徒や職員が誇りに思う学校づくりを目指す。(1)生徒が河浦高校に来て良かった。保護者が河浦高校にやってくれた。職員が河浦高校に勤めて良かった。そう思える学校づくりを目指す。(2)校訓「創造」「至誠」「勤勉」をしっかり身につけ、社会に貢献できる有為な人材の育成を目指す。(3)生徒一人ひとりに夢と希望を育み、全生徒の進路第一希望達成を目指す。(4)人と人との絆を大切にし、一人ひとりが輝き、楽しい学校づくりを目指す。 | | | | | | |
| 2 本年度の重点目標 | | | | | | |
| 1 校訓及び教育目標を柱とする教育の推進 2 基礎学力向上を目指す指導の徹底「Now or Never」～やるなら今だ！～ 3 生徒指導の充実「一教団結」 4 進路指導の充実「割目して見よ河高生」 5 人権教育・特別支援教育の推進 6 部活動の活性化 7 環境教育・道徳教育の推進 8 農業教育・家庭教育・福祉教育の推進 | | | | | | |
| 3 自己評価総括表 ※表中の()は関係する各部。評価とコメント(成果と課題)の記入をお願いします。 | | | | | | |
| 大項目 | 小項目 | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
| 学校経営 | 危機管理体制の強化 | 交通事故防止の取組(生徒指導部) | ・生徒、職員の交通事故0、交通違反0を目指す。 ・地域の警察、安全協会と協力して各学期1回以上の実技講習会実施 ・職員の資質・指導力向上 | ・年に3回の原付及び自転車安全点検を実施する。 ・原付免許取得者には交通安全協会、自動車学校、警察と協力し、実技講習会を行なう。 ・外部講師を招聘し、交通安全講話を実施する。 ・職員を対象とした研修会、講話の実施。 | B | 安全点検については事後の再点検を重視し、指導の徹底を図ることができた。警察から講師を招聘しての交通安全講話を行い、生徒の交通安全意識の高揚に努めた。現時点で交通違反者はゼロ。今後も継続した活動を行うとともに、より安全な交通規範意識や実戦を可能にする新しい取り組みにも目を向けていきたい。 |
| | | 学校事故発生時の的確な対応(生徒指導部、保健部) | ・学校事故0を目指す。 ・職員の的確な判断、対応力向上 | ・危機管理マニュアルの点検と心肺蘇生法の訓練を1回以上実施する。 ・防犯講話を1回以上実施する。 ・緊急連絡網(職員間、保護者への)の確認と生徒、保護者への緊急連絡の徹底と訓練を行なう。 | A | 職員研修として、心肺蘇生法の訓練を行った。また、アレルギー対応の研修もあわせて行った。今後も定期的に行っていく。 ・交通安全や防犯等に関する講話を5月、7月、12月の3回行った。今後もさまざまな角度から生徒への啓発活動を行いたい。 ・緊急連絡網は各クラスで作成し、緊急な場合には、その連絡網にて連絡をまわすように徹底した。 |
| | 職員の資質向上 | 校内職員研修の充実(教務部、関係部署) | ・本校の8つの重点目標の達成に向けて、各部と協力して各学期2回以上の職員研修を実施し、資質向上に努める。 | ・講師招聘等による研修内容の充実。 ・校外研修の復講を呼びかけ、情報の共有を図る。 ・自主的な課題設定を行う。 | B | 充実した内容の校内研修が1年を通して実施された。回数が多すぎるといった意見もあるが来年度は内容を精選して実施したい。校外で行われる研修については、各担当で重要だと思われる資料をコピーして職員朝会に配布するなどして共有した。 |
| | | 教材研究と指導法(教務部) | ・研究授業の全員実施 ・年に2回授業アンケートを実施 | ・研究授業等予定の迫っている職員に声かけを行う。 ・アンケート結果を数値化し、授業改善に役立てる。 | A | 研究授業は3月までに全員実施する予定である。各先生方の授業改善に役立てられるように1学期末と学年末の2回に授業自己評価アンケートを実施した。今年度はアンケートの結果を昨年よりも細かな数値で示し、生徒の変化を捉えやすとした。 |
| 地域に開かれた特色ある学校づくり | 学校行事への保護者参加(総務部) | 公開授業の充実(教務部) | ・参観者の人数を20人に増やす。 | 地域や近隣中学校への呼びかけを行う。 | C | 生徒が作成した案内を近隣の学校に配布するなどして例年よりも呼びかけを強化したが、参観者は昨年比で減少した。公開授業期間中は職員同士で授業を積極的に参観し合い、意見を交わすことができた。 |
| | | 学校行事への保護者参加(総務部) | ・育友会総会の出席率を70%に上げる。 ・体育大会や文化祭等の保護者の参加率を70%に上げる。 ・文化祭における保護者のバザー参加を充実させる。 ・ロードレース大会等における保護者の支援を企画する。 | ・総会、学年会等のほかに授業参観を実施する。 ・土曜又は日曜に実施する。 ・学校行事の1ヶ月前には案内文を送付する。 ・文化祭で保護者によるリサイクルバザーと「がねあげ」の調理及び販売を実施する。 ・ロードレース大会の時に保護者による「豚汁」の炊き出しを実施する。 | B | ・本年度は5月の土曜開催だったため、育友会総会の出席率が61.8%で前年度より大きく下がった(出席率 26年度:73.9% 25年度:77.8%)。 ・その反面、総会前の授業参観には約4割の保護者が参加され、例年よりも多かった。 ・今年度から保護者数が減っていくなかで、秋祭りのリサイクルバザーとがねあげは多数の保護者のご協力をいただき(3人に1人が参加)、ロードレース大会の炊き出しや体育大会の保護者チームにも参加いただき、学校行事を支援することができた。 ・課題として、来年度は保護者がさらに減るので、運営面に心配している。活動が最後まで継続できるように、参加の呼びかけを早期からしていきたい。 |
| | 広報活動の充実(総務部) | ・「学校ホームページ」を週に少なくとも2回以上更新する。 ・「河高だより」10号発行を目指す。 | ・担当者を複数決めて更新の回数を増やす。 ・小さな行事でも写真や記事を作成し発行回数を増やす | A | ・ホームページの最新のニュースについては、週2日以上更新している。今年度は部活動情報も入れるように工夫した。 ・河高だよりは毎月発行できた。 | |
| 学力向上 | 基礎学力の向上 | 7限目進路講座の充実(教務部、進路指導部) | ・高校生として必要な基礎学力を身につけさせる。 | ・火、木曜にDTテスト(DできるをT積み重ねるテスト)を実施し、7限目の時間帯に補習を行う。 | B | DTテストを1年間継続し、ほとんどの生徒が数学・英語の基礎的な内容を復習することができた。一部、取り組み方が芳しくない生徒がいたので、自分のためにやる活動であるということと再度生徒に伝える必要がある。 |
| | | 読書活動の推進(教務部、図書) | ・生徒1人あたりの図書の出し出し数を20冊に増やす。 | ・「朝の読書」に取り組むとともに、生徒によるクラス読本を行う。 | B | 「朝の読書」を定期的かつ効果的に行うことができた。クラス読本を行ったことで、読書の時間中に他の作業をしている生徒や、漫画等を読んでいる生徒が減り、より充実した読書の時間が確保できている。生徒の読本本に関しては、読本や広報により、昨年度がなかったジャンルの本が貸出されている。しかし、貸出頻度に個人差が大きく、目標の20冊到達は難しいと予想されるため、来年度は個人貸出しが少ない生徒の目標に立った活動を検討したい。 |
| | 授業時間の確保と充実(教務部) | ・行事計画とシラバスの的確な実施 ・教科毎の授業時数をバランスよく確保する。 | ・公開授業週間や研究授業により指導法の向上を図る。 ・曜日調整を行う。 ・出張・年休等で授業ができない時もあるべく授業を入れ替え、時数の確保に努める。 | B | 3月までに研究授業の全員実施が達成できるよう、職員への声かけを行っている。曜日調整についても可能な範囲で実施したが、代休・祝日が月曜日に偏るので来年度の代休の設定日を工夫する必要がある。 | |
| キャリア教育(進路指導) | キャリア教育の充実(進路指導部) | 自己実現のための取組(進路指導部) | ・自己の適性に合った進路実現 | ・面談を充実させ、適切なアドバイスを行う。 | A | 担任を中心に学年団、教科、キャリアサポーター等複数の視点から面談を行うことができた。教員間の意見交換もスムーズである。 |
| | | インターンシップの充実(進路指導部、2学年) | ・生徒の希望に沿ったインターンシップ先の開拓を行う。 ・実施後アンケートでの生徒の満足度9割を目指す。 | ・生徒の希望を早めに把握し、キャリア教育応援団やハローワーク、ジョブカフェサテライト員と連携していく。また、キャリアサポーターの企業訪問時の情報を基に開拓していく。 ・就職支援としてキャリアサポーターとの面談を行い、職種の説明など個に応じた対応を | A | 2学年部を中心として充実した取組になった。事後に報告会や、就職希望者に対するキャリアサポーターとの面談を実施することで、体験学習を通して身につけた就職観を自分の人生に当てはめて考える機会を持つことができ、体系的なインターンシップを行うことができた。 |
| | 進路希望の達成(進路指導部) | 個別指導の充実(進路指導部) | ・授業や課外授業以外にも学習館特訓講座や個別指導を行う。 ・特訓講座年間参加者50名(延べ数)を目指す。 | ・専門的な内容になるよう外部講師によるガイダンスの実施や校外で実施されている進学ガイダンスへの参加の呼びかけを行う。 ・担任・進路指導部・教科担当者と連携し、生徒の進路達成のために、それぞれのレベルにあった指導を行う。 | B | 大小様々な規模の説明会を目的に応じて使い分けすることができた。外部講師による職業講話についても、就職教育支援事業との連携により充実した内容で実施することができた。 |
| | | | | | A | 課外授業や特訓講座については全ての生徒に門戸を開き、生徒の学習意欲の喚起や日頃の学習方法の見直しをする機会とすることができた。短期間の取組にとどまらず、事後に効果が継続するものにした。 |

熊本県立河浦高等学校 平成27年度学校評価表

| | | | | | |
|---|------------------------------|--|---|--|---|
| 1 学校教育目標 | | | | | |
| 「地域や保護者に信頼され、生徒や職員が誇りに思う学校づくりを目指す」(1)生徒が河浦高校に来て良かった。保護者が河浦高校にやって良かった。職員が河浦高校に勤めて良かった。そう思える学校づくりを目指す。(2)校訓「創造」「至誠」「勤勉」をしっかり身につかせ、社会に貢献できる有為な人材の育成を目指す。(3)生徒一人ひとりに夢と希望を育み、全生徒の進路第一希望達成を目指す。(4)人と人との絆を大切に、一人ひとりが輝き、楽しい学校づくりを目指す。 | | | | | |
| 2 本年度の重点目標 | | | | | |
| 1 校訓及び教育目標を柱とする教育の推進 2 基礎学力向上を目指す指導の徹底「Now or Never」～やるなら今だ！～ 3 生徒指導の充実「一致団結」 4 進路指導の充実「刮目して見よ河高生」 5 人権教育・特別支援教育の推進 6 部活動の活性化 7 環境教育・道徳教育の推進 8 農業教育・家庭教育・福祉教育の推進 | | | | | |
| 3 自己評価総括表 ※表中の()は関係する各部。評価とコメント(成果と課題)の記入をお願いします。 | | | | | |
| 生徒指導 | 基本的な生活習慣の確立 | ・時間を守らせる ・挨拶・礼儀指導 ・服装指導 (生徒指導部) | ・年間を通しての登校指導を実施する(遅刻0目標) ・服装検査を実施する(朝掃除0目標) ・あいさつの励行。 ・授業環境の充実。 ・部活動の活性化。 | ・正当な理由のない遅刻者に対し、遅刻指導を行う。 ・生徒会による挨拶運動を実施し、生徒が主体的に挨拶をできる雰囲気をつくる。 ・定期的な服装検査に加えて、進路部からの指導や学年毎の指導を重視する。・授業に真剣に取り組むことのできる雰囲気作りをする。 ・部活動や同好会などの授業以外の活動を通して、基本的習慣の確立を図る。 | A 前年と同様遅刻者の数は少ないが一部の遅刻、もしくは時間ぎりぎりに登校する生徒に対する指導が不十分であった。学校全体で時間に余裕を持った生活が送れるよう指導することで、生活時間の改善を図りたい。整容面での違反者も少数で限られてきた。単に決まりを守るだけでなく、組織の一員としての自覚を促すような指導を重視していきたい。授業環境については良好である。 |
| | 交通道德の定着 | ・事故に遭わない原付、自転車の乗り方指導 ・地域の模範となる交通マナーを身につける (生徒指導部) | ・登校時定ポイント指導の実施(交通違反0目標) ・交通安全教室、講演の実施(年2回以上) ・二重ロックの徹底 ・危険予測学習の実施 | ・定期的に定ポイント指導を実施し安全運転を意識させる。 ・生徒部で外部講師を検討し、印象深い交通安全講話になるよう努める。 ・登校指導時に鍵かけ点検を行い、二重ロックを徹底する。 ・危険予測学習を行い、交通安全意識を育てる。 | B 原付による自損事故が2件発生。定ポイント指導を月に2回のペースで実施したことで生徒の登校状況の把握に役立った。二重ロック点検においては定着が見られ、毎月100パーセントの施設率を達成している。家庭での防犯につなげたい。講話についても外部講師の招聘をスムーズに行うことができた。 |
| | 美化意識の向上 | ・掃除指導の充実 ・汚さない、散らかさない ・教育環境つくり (生徒指導部) | ・掃除に一生懸命に取り組ませる。 ・教室の整理整頓に心掛けさせる。 ・ボランティア活動への取組み。 | ・毎日の掃除を教師が生徒と共に、美化意識の向上を図る。 ・年3回の美化コンクールを実施し、クラス毎の競い合いと助け合いから美化意識の向上を図る。 ・年間3回の全校ボランティアを実施する。 | B 掃除に関しては全生徒持ち場で時間いっぱい担当職員の指導の下掃除を行っている。美化意識の向上に関しては継続した指導が必要と感じる。ボランティア活動等においては高い意識の下、積極的に活動に励むことができた。 |
| 人権教育の推進 | 人権教育の向上と人権教育の充実 | ・人権意識を高める取組の充実 ・HR等での人権教育の充実 ・命を大切にすることを育む指導 (人権教育) | ・研修会等への積極的参加 ・いじめアンケートや面談の実施 ・人権標語の作成 ・HR等での計画的な人権教育の実施 | ・職員や生徒対象の各種研修会への積極的参加の呼びかけを行う。 ・いじめアンケートや面談を実施し、生徒理解を深め、問題の早期解決に努める。 ・全校生徒で人権標語作成を行い、人権意識を高める。 ・人権教育講演会や、学年ごとの人権教育LHRを計画的に実施する。 | B ・拉致問題に関する研修へ職員だけでなく、学生会の生徒にも参加していただいた。人権教育担当だけでなく、夏の菊池恵楓園現地研修などへ職員の参加ができた。 ・校内においても全職員でレポートを作成し、本校の人権課題について考察した。 ・心のアンケートを学期ごとに実施し、積極的な生徒の現状の把握に努めた。 ・児童虐待防止、心のきずなを深める目的で全校生徒で人権標語作成を行い、人権に対して意識を向けることができた。 ・人権教育講演会としてデートDVや男女のつき合い方を中心に人間関係の在り方について考えさせることができた。 ・講演会の打ち合わせにおいて、男女共同参画について担当の意識が不十分で演者の方々にご迷惑をおかけした。 ・集まった全員レポートや呼称についてのアンケートについて何かしら先生方に返せるようにしたい。 |
| | 命を大切にすることを育む指導 | ・命を大切にすることを育む授業の充実 ・命を大切にすることを育む講話、講習の充実 (保健部) | ・社会問題の中の生と死等について学習を深め、命を大切にすることを育むことができる。 ・夢や目標、人のために役立つこと、尽くすことについて学習を深め、命を大切にすることを育むことができる。 | ・思春期保健教育講話の実施。 ・食育教育の実施。 ・心肺蘇生法講習会の実施。 ・災害ボランティア養成講座の実施。 ・薬物乱用防止講話の実施。 | B 各種講話・講演会は、ほぼ予定通り実施することができた。外部講師の方の専門立場からの話により、生徒たちは自分の行動に責任をとること、自分が大切な存在であることに改めて気づくことができたようである。また、自分を大切にするとともに周りの人も大切にすることを必要だと感じたと感じたようである。来年度も生徒たちの実態をふまえ、継続していきたい。なお、予防教育として、学年ごとにスクールカウンセラーよりストレスマネジメントについて、研修を実施できた。 |
| いじめの防止等 | いじめの未然防止や早期発見の取組の充実 | ・いじめ防止対策委員会の設置 ・いじめの未然防止・早期発見のための講話や面談等の充実 (いじめ防処委) | ・アンケート等を通じて、早期にいじめの発見に努める。 ・面談等を通じて、個別の対応やいじめであるかの判断を行う。 ・保護者や関係機関と連携し、対応にあたる。 ・解決・報告・継続観察を心がける。 | ・いじめ未然防止講話等の実施 ・生徒からのいじめ防止の提言 ・いじめ防止等の対策のための組織会議の実施 ・心のアンケートの各学期実施 ・二者面談の実施 | B ・学生会では、学校独自のいじめ防止に関する提言を作り、生徒期会で呼びかけることができた。 ・学期ごとに心のアンケートを実施した。また、現状の把握と対応について、いじめ防止対策推進委員会を開き、スクールソーシャルワーカーに助言いただいた。 ・深刻ないじめはなかったと思うが、いじめを感じた生徒もいた。普段の生活の中で、相手が不快に感じることはいけないということを考えさせる指導が必要と感じた。 |
| 特別支援教育 | 特別な支援を必要とする生徒への柔軟な対応 | 個に応じた指導の充実 (特別支援) | ・特別な支援を必要としている生徒についての情報を職員間で共有し、適切な支援を行う。 | ・特別な支援を必要としている生徒についての情報を全職員で共有する。 ・個別的教育支援計画や個別的教育指導計画の更新を行う。 ・ケース会議や専門機関との連携をとりながら、支援のあり方を検討する。 ・一人ひとりの進路実現に向けた指導を行う。 ・ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業を実現するため、アクティブ・ラーニング型授業や協同学習の形態やICTを活用した授業の展開の仕方提案する。 | C ・支援の検討について、もっと上手に手立てのアイデアを引き出せば、学期ごとの評価に多くの先生方が参加できたものと思われる。 ・アクティブ・ラーニング型授業について、校内では積極的に提案はできていない。 ・担任・キャリアサポーターを中心に進路決定については職場訪問や障害者手帳取得、ハローワークとの連携などを十分行なった。 ・移行支援については要請に応じて行っていく。 |
| 特別活動・部活動 | 生徒会(学生会)活動 | 主体的な学生会活動の推進 (生徒指導部 生徒会) | ・生徒朝会の充実(委員会の発表)。 ・学校行事における学生会の主体的な参加及び企画。 ・生徒委員会の充実。 | ・生徒朝会を毎月1回、月初めに行う。 ・学生会長を中心に役割分担をし、学生会全体で行事に参加する。 ・生徒委員会を適宜開催する。 | A 昨年度同様、生徒主導の生徒委員会活動を実施することができた。そのことで生徒たちの中からも、学校を自分たちで良くしようという積極性が生まれつつあるように感じる。生徒の可能性を信じて、今後も生徒が主体的に活動できる環境を作りたい。 |
| | 部活動(運動部、文化部、農業クラブ、家庭クラブ)の活性化 | ・部活動、同好会加入率90%を目指す ・九州・全国大会への出場を目指す (生徒指導部) | ・年間を通しての部員加入を行う。 ・活動計画を明確にする。 ・事故等の起きない活動を行う。 | ・顧問を適材適所に配置する。 ・近隣の中学校等の合同練習を行い、中高の連携を図る。 ・校内自習室を実施し、競技力の向上と仲間意識を高める。 ・生徒の体調管理や練習内容をこまめにチェックする。 | B 生徒数の減少に伴い、活動状況に限られた部活動が多い中で、各種大会での入賞や、様々な他団体との交流等、特別活動としての部活動の成果が多数見られた。来年度こそは全国大会への出場を果たしたい。また、加入率は同好会も含めると100%に近い状態である。今後は部活動への積極的な参加に期待したい。また職員一丸となって動きかけをおこなっていききたい。 |